

ウッドバッジ研修所 「課題研修」支援の手引き



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

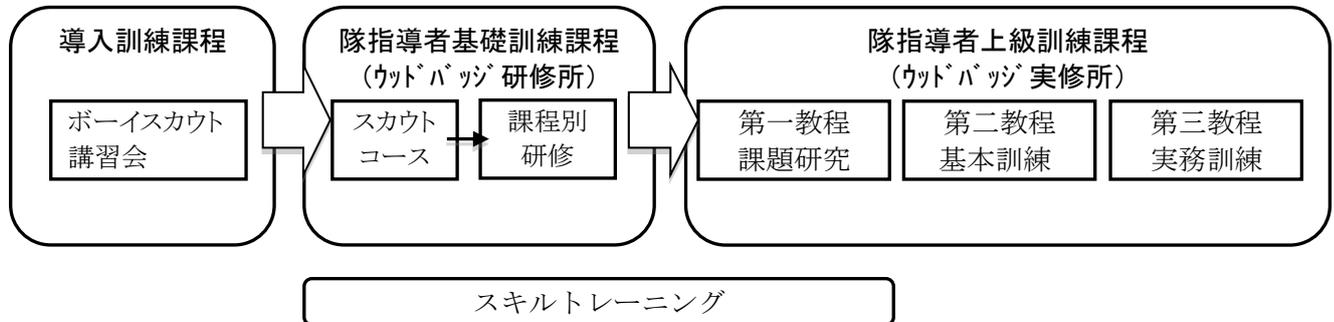
目次

1. 本書について	1
2. コミッショナーの支援について	2
3. 「課題研修」履修までの流れ	4
4. 「課題研修」課題の指導のポイントとまとめ方	5
課題研修提出用紙	8

1. 本書について

隊指導者基礎訓練課程（ウッドバッジ研修所）は、各部門の隊指導者が共通に履修し、スカウト運動の基礎を学ぶ「スカウトコース」と、それぞれの部門の特徴を学ぶ「課程別研修」とで構成されます。

スカウトコースは参加者がボーイスカウト指導者としての責務を果たすことができるように、スカウト教育に関する基本的な内容を習得することを目的とし、課程別研修は参加者が当該部門の隊長としての責務を果たすことができるように、隊運営に関する基礎的な方法を習得することを目的とします。



ウッドバッジ研修所スカウトコースは3泊4日のテント泊、課程別研修は7時間の研修で実施し、スカウトコースと課程別研修それぞれに「課題研修」課題が設定されています。

本書は、参加者への課題研修「課題」への取り組みに対する支援についての考え方を示すものです。

ウッドバッジ研修所スカウトコースおよび課程別研修「課題研修」の認定は日本連盟トレーナーが行いますが、隊指導者の任務中の支援の一部であることを考えますと、コミッショナーの皆様の支援が何よりも重要であることは言うまでもありません。

ウッドバッジ研修所の課題研修の設定には、次のねらいがあります。

- ① 参加意欲を高め、参加に向けた心構えを整える。
- ② ウッドバッジ研修所を効果的に学習できるようにする。
- ③ コミッショナー、トレーナーおよび先輩指導者との交流の機会となる。
- ④ 自己研修の促進をはかる。

この課題研修のねらいが達成され、隊指導者が積極的にウッドバッジ研修所に参加し、研修の効果を十分に上げるためには、「課題研修」に取り組む指導者を画一的に扱うのではなく、一人ひとりの経歴や、その背景（参加の動機、隊の現状、参加者の役割、指導者経験、スカウト経験等）を十分に理解したうえで、最適な助言と支援を行うことであることは言うまでもありません。

これらを踏まえ、隊指導者の「課題研修」への取り組みが、トレーナーの支援によって効果的に進むように、コミッショナーの皆様が参加者の「支援の一助」となるよう、本書を作成いたしましたので、ご活用ください。

2. コミッショナーの支援について

コミッショナーとして、ウッドバッジ研修所参加希望者の「課題研修」を支援する取り組みを整理すると、以下の事項が挙げられます。

- ① 指導者に対して「課題研修」に取り組みやすい環境づくりを行う。
- ② 「課題研修」に取り組む指導者とのコミュニケーションをはかる。
- ③ 「課題研修」に取り組む指導者を支援する担当者を、団の状況を加味しながら選任する。
最終的な「課題研修」の履修認定はトレーナーであるため、トレーナーの選任と支援依頼をする。密なる情報交換と進捗状況の確認が必要となる。
- ④ 基礎訓練課程の修了後、当該者から報告を受け、学習で得たものを自隊の活動で実践することを促す。

① 指導者に対して「課題研修」に取り組みやすい環境づくりを行う。

特にスカウト経験がない指導者で、ボーイスカウト講習会を修了されたばかりの方などは、さらに上級コースへの取り組みなどとは言っても、躊躇や不安があるものです。ウッドバッジ研修所への参加がなぜ必要なのか、またその研修の内容は何かを的確に伝え、理解を得る事が大切です。その上で支援者としてのコミッショナーがいることをもう一度認識してもらう必要があります。支援を行う上でいつなら都合がよいのか、連絡先はどこなのか等をはっきりと伝えて、「いつでも一緒に取り組む事ができる」という姿勢をアピールすることが肝心です。また、地区内の指導者養成関連委員会、県連盟トレーニングチーム、そしてなによりも団の協力を得ながら参加希望者が「課題研修」に容易に取り組むことができる環境を作ることが大切です。

② 「課題研修」に取り組む指導者とのコミュニケーションをはかる。

指導者の資質を向上し、各種訓練への参加を奨励することは、コミッショナーの重要な責務の一つです。そのためには、一人でも多くの指導者とまず出会うことが大切です。この「課題研修」は、指導者との出会いとコミュニケーションをはかる場として活用することには大変有効です。

話し合いや文書の交換、電話でのやりとり等方法は幾通りも考えられますが、コミュニケーションを確かなものにし、今後のかかわりやサービスを考えると、直接会って話し合う機会を設けることが望まれます。むしろコミッショナーが積極的にコミュニケーションを深める機会を設けることが必要ではないでしょうか。この機会を設け、課題研修への取組みを積極的に利用して欲しいものです。

③ 「課題研修」を履修する指導者に対して、支援の担当者を選任する。

「課題研修」に取り組む指導者に対して、個別に支援する人を選任することは大変重要です。団内で支援ができるのか。また、「課題研修」の履修認定がトレーナーとなりましたので、トレーナーに支援依頼をすることが必要となってきます。

課題研修への取り組みの過程で、ウッドバッジ研修所への参加意欲を高め、参加への心構えを整えるためには、課題そのものへの取り組みも必要ですが、課題以外のこと（研修所の日程や準備物、過去の参加者の体験や、参加後の隊活動への取り組みなどの話しや資料提供など）が非常に重要です。また、コミッショナーとしての期待と励ましを明確に伝えることも効果的です。「団関係者に勧められたから」という理由も参加の動機としてはありますが、自ら「行ってみよう」という気持

ちを持って参加すれば、ウッドバッジ研修所での学習効果の向上が期待できるのは言うまでもありません。

従って課題研修課題の履修認定にあたっては、単に、課題の内容ができていない／できていないといった判断だけではなく、疑問な部分や、わからないことが明らかになり、その結果参加への意欲が十分に高まったかどうか、更に参加に必要な情報が十分に伝わったかどうか、参加に向けての準備が自らできるような状態になったかどうかをよく見極めて頂くことが大切です。個々の課題の支援のポイントについては後述します。

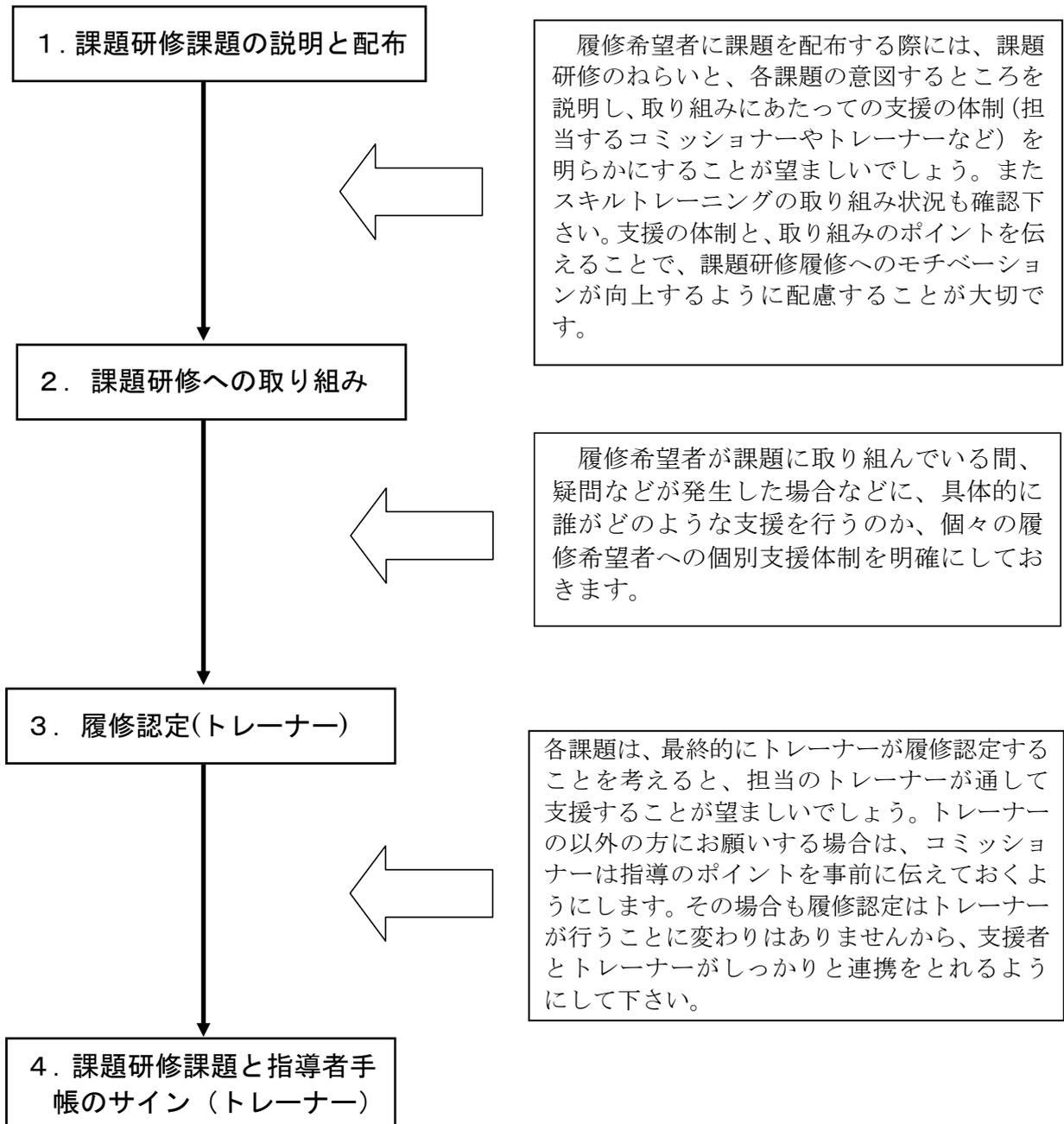
④ 隊指導者基礎訓練課程修了後、当該者から報告を受け、学習で得たものを自隊の活動で実践することを促す。

隊指導者基礎訓練課程を修了したら、コミッショナーに報告するよう指導し、課題研修やウッドバッジ研修所で気がついたことをコミッショナーとして把握するようにしてください。これらの情報をコミッショナーやトレーニングチームの研究集会等で交換しあい、トレーニングがより良い方向に進むように努力しましょう。

また、隊指導者基礎訓練課程で得たことを実際の活動にどのように反映していくのか、これからの活動への取り組みに関しての話し合いを持ち、「**新たなスタート地点に立った**」ことを一緒に確認することも大変有意義なことでしょう。

更に、コミッショナーには隊指導者が役割を果していくには継続的な研修が大切であることを助言し、今後その機会が団内や県連盟内や地区内でどのように提供されるかを周知するとともに、必要な時にはいつでも相談や支援ができる環境があること（インサービス・サポート）を伝えてください。

3. 「課題研修」履修までの流れ



4. 「課題研修」課題の指導のポイントとまとめ方

(1) 《スカウトコース》課題 1

世界スカウト機構発行資料「スカウト教育法（2019 対訳版）」、「日本連盟規程集」（最新の年度版）教育規程第 1 章一般原則を読み、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

「スカウト教育法」は、初めてウッドバッジ研修所に参加される方には難しいと思いますが、スカウト運動とは何か（基本原則）、どのような方法で展開するのか（教育法）の 2 部構成であり、スカウト運動独自の世界共通化したものであることを説明してください。
基本原則は文字通りスカウト運動の姿を世界統一基準として表したものです。
教育法については、「自ら学び、研鑽をしながら成長していく仕組み」であり、それには 8 つの要素を構成し作用させているという独自性もっています。

「スカウト教育法」を読むことで、普段の活動と記述内容がうまく結びつかない（イメージすることが難しい）ことがあるかもしれませんが、ウッドバッジ研修所の期間中や、研修後の活動の中で具体的な理解が進みますので、「スカウト教育法」のコンテンツ（目次にある、ちかいとおきて、行うことによって学ぶなど）について、「ウッドバッジ研修所スカウトコースで初めて聞いた」ということがないように、必ず読むことをご指導ください。

また、日本連盟教育規程第 1 章一般原則についても「スカウト教育法」に則ったものであり、幼年期から青年期にわたる各年齢層に適応するよう教育することを各条文で確認してください。
大切なことは、これらを参加者が受容して訓練に参加するということです。この点を必ず、確認してください。

<まとめ方>

上記支援のポイントの説明と面談等を通じて気づいたこと、感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

スカウト教育法（2019 対訳版）のダウンロード先

https://www.scout.or.jp/member/wosm_documents/

(2) 《スカウトコース》課題 2

スカウティング・フォア・ボーイズの第Ⅸ章、第Ⅲ章、第Ⅰ章、第Ⅱ章の順番に熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

スカウティング・フォア・ボーイズは、本運動を行ううえでは欠かせないものだということを確認していただきたいと思います。スカウティングの本質がすべてこの本に集約されています。

B-P が経験したこと、見聞したこと、伝えたい思いや次世代を担う人々への願いなどが短いお話で綴られています。物語をもとにしたゲームやハイキング、キャンプ、「班練習」として訓練のヒントも例示されています。工夫次第で、スカウト達が心を躍らせる楽しいプログラムを提供できることを知らせてください。現代普及している「オリエンテーリング」や「ネイチャーゲーム」、「ローインパクトキャンプ」や「エコプログラム」など…ヒントは、ここに記されているということを見出し、理解が深まるように確認してください。

スカウト運動の原点の理解を深めること、そして、ちかいとおきてや、パトロールシステム、スカウトスキルについても挿し絵を通して平易に書かれていることを確認していただき、下記章

を、第Ⅸ章→第Ⅲ章→第Ⅰ章→第Ⅱ章の順番に熟読していただくように話をしてください。本書は少年向けに書かれたものですが、成人が読む場合に望ましいと思われる順番としています。

第Ⅸ章「公民としての私たちの義務」

この活動の根底にあることが書かれています。

第Ⅲ章「キャンプ生活」

野営生活（野外活動）を通して、スキルを身につけ成長していくことが書かれています。

第Ⅰ章「スカウト技能」

活動する際の知識、技能、方法などが書かれています。

第Ⅱ章「旅」

プログラムの実施、展開方法などが書かれています。

順番に読むことによって、容易に活動の流れが理解できるようにと考えています。

またできるだけすべての章を読むよう指導をしてください。

＜まとめ方＞

スカウティング・フォア・ボーイズを読んだ感想に対して、指導、アドバイスをしてください。面談等を通じて気づいたこと、感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

（3）《スカウトコース》課題3

スキルトレーニングにおいて以下の細目を履修し、指導を受けた内容を記述してください。

（1）ロープワーク

本結び、もやい結び、巻き結び、ねじ結び、引きとけ結び、角しばり、筋かいしばり

（2）地図とコンパス

16方位と方位角の呼び方を覚えプレートコンパス（シルバコンパス）を使用することができる。

（3）刃物の取り扱い

ナイフの正しい使い方と安全について説明できる。

（4）野営技能

- ・ 家型テントの設営、撤営と維持管理ができる。
- ・ フライテント（タープテント）の設営、撤営と維持管理ができる。
- ・ 班の炊事に適する2種以上のかまどを使い薪で炊事ができる。

【支援のポイント】

スキルトレーニングは、スカウトへの指導能力を高める。隊指導者のプログラム推進能力の幅を広げることを目的に設けられました。導入訓練課程修了後から履修認定を受けることができます。指導者がすでに身につけている内容についてはトレーナーの認定等により履修を認めます。本来は指導者が自主的に取り組みトレーナーの認定を受けるもので、あくまでも定型外訓練に出なければ認められないというものではありません。

上記、課題3においてのスキル細目については、スカウトコース参加にあたり、最低限、必要となるスキルです。

スカウトコースでは全日程テント泊となります。野営生活を通じて適切な訓練効果を上げるためにも、全ての参加者には課題3のスキル項目の履修は必要となります。

参加者によっては全く経験していないなど随分差が出てくるころだと思います。

すでに細目の履修認定がされている場合でも、不安がないか再確認をしてください。課題研修

として初めて取り組む参加者の方には、丁寧な指導を直接行っていただき、スキルを覚えることで楽しい活動ができることをお伝えいただけるようお願いいたします。また、ボーイスカウト スカウトハンドブック、その他スカウトライブラリー等の書籍を十分活用していただくよう、ご配慮をお願いいたします。

最後に、研修所参加が初めての指導者には、会場までの交通手段や施設、気候に応じた持ち物や研修所での生活についての情報を伝えて、不必要な緊張や、不安を抱かないようにご配慮ください。

<まとめ方>

スキルトレーニング実施後、覚えたスキルがどのような場面で使うのか等、説明をして下さい。面談等を通じて気づいたこと、感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

(4) 《課程別研修》課題 1

当該隊リーダーハンドブックを熟読し、指導を受けた内容を記述してください。
※ベンチャースカウト課程はベンチャースカウトスカウトハンドブックも熟読する。

【支援のポイント】

「課程別研修」は、指導者が身につけるべき共通の内容を取り扱い、個別の課題については取り扱いません。

「How To」を身につけることを主とした研修で、当該部門の隊運営に関する基礎的な方法について学びます。

参加者によっては、スカウトの数が少ないなどの理由により、隊長ハンドブック（リーダーハンドブック）等に記述されている方法や手順の通りではないといったケースも多々見られることと思います。

スカウト運動の目的を達成するためには、年代に合わせてスカウト教育法の各要素がバランスよく組み込まれた活動であることが必要ですので、最も効果的に展開できる組織と手順が基本となる標準としてハンドブックには記述されています。本研修での学び・理解が深まるように、一緒に確認をして下さい。

スカウトは一人ひとり異なる「個性」を持っていますし、隊を取りまく環境もそれぞれ異なっているため、隊の運営にあたっては様々な方法や手順があることが自然です。「ハンドブックの通りではないので間違いである」ということではなく、「より効果的にスカウトの成長を支援するため」、また、「より効率よく同じ効果を挙げるため」には標準を理解することが重要です。

ただ、読んでおくようにと促すだけでなく、当該部門の運営方法・プログラムプロセスなどについて、話し合う機会を持って一緒に確認をして下さい。

<まとめ方>

自隊との違いについて明確にしてください。その上で、指導やアドバイスをし、その後の感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

ウッドバッジ研修所 スカウトコース 「課題研修」

_____ 課程 提出日： 年 月 日

ふりがな										
氏名										
	性 別	男 ・ 女								
住所	(〒 -) 電話 () -)									
生年月日	昭和・平成 年 月 日生 (満 歳 月)									
所属	_____ 連盟 (_____ 地区) 第 _____ 団 _____ 隊 役務 _____									
登録番号	(登録証の番号)									

課題研修	指導を受けた人	
	氏名	氏名
課題 1 世界スカウト機構発行資料「スカウト教育法（2019 対訳版）」、「日本連盟規程集」（最新の年度版）教育規程第 1 章「一般原則」を読み、指導を受けた内容を記述してください。		
課題 2 スカウティング・フォア・ボーイズの第 IX 章、第 III 章、第 I 章、第 II 章の順番に熟読し、指導を受けた内容を記述してください。		
課題 3 スキルトレーニングにおいて以下の項目を履修し、指導を受けた内容を記述してください。 ※細目について別紙「課題研修まとめ用紙」を参照。 (1) ロープワーク (2) 地図とコンパス (3) 刃物の取り扱い (4) 野営技能	認定を受けたトレーナー (1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____	

課題研修を履修したことを認定します。

年 月 日

認定トレーナー署名 (LT・ALT) (氏名) _____



「課題研修まとめ用紙」

課程

氏名：

課題 1	
課題 2	
課題 3	<p>(1) ロープワーク 本結び、もやい結び、巻き結び、ねじ結び、引きとけ結び、角しばり、筋かいしばり</p> <p>(2) 地図とコンパス 16方位と方位角の呼び方を覚えプレートコンパス（シルバコンパス）を使用することができる。</p> <p>(3) 刃物の取り扱い ナイフの正しい使い方と安全について説明できる。</p> <p>(4) 野営技能</p> <ul style="list-style-type: none">・ 家型テントの設営、撤営と維持管理ができる。・ フライテント（タープテント）の設営、撤営と維持管理ができる。・ 班の炊事に適する2種以上のかまどを使い薪で炊事ができる。

※各課題について指導を受けた内容と感想を記述し、申込書と一緒に提出ください。

ウッドバッジ研修所 課程別研修「課題研修」

_____ 課程 提出日： 年 月 日

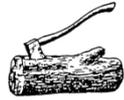
ふりがな											性別	男 ・ 女
氏 名												
住 所	(〒 _____)										電話 (_____) - _____	
生年月日	昭和・平成	年	月	日生	(満	歳	月)					
所 属	_____ 連盟 (_____ 地区) _____ 第 _____ 団 _____ 隊 役務 _____											
登録番号	(登録証の番号)											

課題研修	指導を受けた人	
	氏 名	氏 名
課題 1 当該隊リーダーハンドブックを熟読し、指導を受けた内容を記述してください。 ※ベンチャースカウト課程はベンチャースカウトハンドブックも熟読する。		

課題研修を履修したことを認定します。

年 月 日

認定トレーナー署名 (LT・ALT) (氏名) _____



「課題研修まとめ用紙」

課程

氏名：

課題 1	<ul style="list-style-type: none">・ハンドブックの内容と自隊との違い
	<ul style="list-style-type: none">・指導やアドバイスの内容
	<ul style="list-style-type: none">・指導後の感想

※課題について指導を受けた内容と感想を記述し、申込書と一緒にご提出ください。

ウッドバッジ研修所「課題研修」支援の手引き

平成31年2月
令和3年1月31日

発行
一部改訂

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
指導者養成委員会 編

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟